

船舶事故等調査報告書

平成26年4月24日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2013広第87号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成25年5月7日（火） 13時00分ごろ
発生場所	岡山県備前市鹿久居島北方のうちわだの瀬戸 備前市所在の日生港日生防波堤西灯台から真方位072° 1.76海里付近 （概位 北緯34° 44.1′ 東経134° 18.3′）
事故等調査の経過	平成25年5月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	ヨット シーエッチシー CHC、5トン未満
船舶番号、船舶所有者等	240-38099岡山、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	なし
損傷	船首船底部及びキールに擦過傷
事故等の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者4人を乗せ、帆走により、タッキングを繰り返しながら、うちわだの瀬戸を陸岸に接近して北東進中、平成25年5月7日13時00分ごろ、船首部が、うちわだの瀬戸北側にある護岸の捨て石に乗り揚げた。 船長は、本事故の発生を海上保安部に通報し、本船は、来援した巡視艇に救助された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 2、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の中央期、潮高 約61cm
その他の事項	本船は、本事故当時、プロペラに漂流物を巻き込んでおり、機走ができなかった。また、喫水は分からなかった。 本船は、レーダー及びGPSがなく、本事故発生場所付近の海図を備えていなかった。 船長は、本事故発生場所付近の航行経験は豊富であった。 船長は、ハンディGPSを携行していたが、目視のみで船位の確認を行っていた。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	なし
判明した事項の解析	本船は、鹿久居島北方のうちわだの瀬戸を北東進中、船長が、本船の喫水を確認しておらず、喫水と水深の関係から陸岸まで接近できる

	距離を把握していなかったことから、陸岸に接近し、護岸の捨て石に乗り揚げたものと考えられる。
<b>原因</b>	本事故は、本船が、鹿久居島北方のうちわだの瀬戸を北東進中、船長が、本船の喫水を確認しておらず、喫水と水深の関係から陸岸まで接近できる距離を把握していなかったため、陸岸に接近し、護岸の捨て石に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
<b>参考</b>	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・船位の確認は、目視だけでなく、GPSなども活用すること。